

# 海賊ユートピア

PIRATE UTOPIAS

ピーター・ランボーン・ウィルソン著

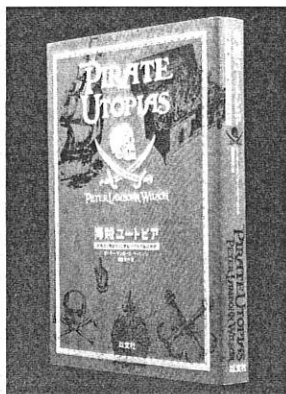
以文社 2600円

評・星野 博美 (ノンフィクション作家)  
写真家

海賊という言葉には、ロマンをかきたてる響きがある。自由、略奪、国家への反逆、逃亡。ハリウッド映画や冒険小説で海賊が繰り返してテーマになるのは、海賊に対する憧れのような感情を多くの人が共有しているからだろう。

本書が扱うのは海賊による共和国の物語だ。16世紀後半から18世紀にかけて、北アフリカのアルジェ、チュニス、トリポリ、モロッコのサレーにかけての「バーバリー海洋国家」で海賊たちが暮らしていた。しかも彼らはイスラームに改宗した、何千人ものヨーロッパ出身の元キリスト教徒「レネゲイド（背教者）」なのだ。

## 背教者たちの共和国



◇Peter Lamborn Wilson=1945年生まれ。作家。60~70年代、イギリスとイランに滞在。著書に『天使』など。

バーバリー海賊はヨーロッパの船を襲撃して略奪し、キリスト教徒を捕虜にして身代金を要求したり奴隷として売り払ったりして稼いだ。中でもサレーは選挙で選出された海賊船長評議会が統治する、文字通りの海賊共和国だった。

スペインから追放されたモリスコ（キリスト教に改宗させられたムスリム）は、スペインに対する復讐から血気盛んな海賊になった。オランダ政府からスペイン船への私掠の免許を得て海賊行為を繰り返すうち、任務を逸脱して母国の船を襲うようになるオランダ人。文無しでイギリス海軍に入って、無慈悲で苛酷な労働を経験し、海賊に転じて母国の艦船を襲うイギリス人。17世紀ヨーロッパの海の労働者階級が、イスラームの神秘に魅かれ、自分たちを抑圧した社会に対するレジスタンス活動を行う。知識階級の歴史学者たちが無視してきたダイナミックな歴史がそこには隠されている。

自称海賊学者の著者による、大海原をあてどもなく漂い、あちこちへ飛び火する独特な文章は、海賊初心者の私には正直言って読みづらい。しかしいきなり現れた海賊にさらわれて見知らぬ港で降ろされたような酔っ払い感覚も含めて、不思議な魅力のつまった本である。海賊をこよなく愛する訳者による解題が、初心者を新世界へ誘う羅針盤となっている。菰田真介訳。

「読売新聞」朝刊 2013. 7/21 (日)